

# 新市町村の横顔

## 五霞村



大沢村長

### 1. 沿革

この村は県の南西端に位し、東は江戸川を隔てて千葉県に、南西は旧権現堂川(現在貯水池)を挟んで埼玉県に、北東部は利根川を境に猿島郡総和村と境町にそれぞれ隣接している地味豊かな純農村である。この地方は3,000年前の昔は海辺であったといわれるが、江戸、鎌倉への関門として重要な土地なので鎌倉時代には下河辺庄司行平の領地となり、徳川時代には天正18年に松平因幡守の管轄に変わり

その後小笠原氏、北条出羽守、牧野氏、板倉氏、久世氏などの交代所領となっていた。そして明治4年関宿県、同年11月に印幡県、同6年千葉県、同8年に茨城県に、同11年には西葛飾猿島郡にそれぞれ編入されたが、この村は四方川に囲まれているので昔から再三洪水に見舞われ、堤防の決壊をはじめ田地、人家の流失したものが多く、その惨状は言語に絶することもしばしばであった。この長い間水禍と執拗に戦ってきた住民の性格も次第に粘り強くなり、強じんな村民性と自主精神が育成されたようで、面積23.32平方町人口9,767人(男4,784、女4,983)世帯数1,503を有する(昭和33年6月毎月人口調査)本村としては、河川改修事業を中心に土地改良、農業経営の改善向上、医療福祉の増進を図るため村民の融和協調をモットーに力強い足跡を示している。

### 2. 産業

まず農業面をみると、農家戸数1,198、農家人口8,121人(男3,939、女4,182)で実に全村人口の83%を占めており、耕地面積も1,289町(田338町、畑877町、樹園地74町)の多きに達している。(昭和33年2月冬期調査)なかでも麦類の生産が多く作付面積も大麦701町、小麦95町、ビール麦13町にのぼり、また野菜類の栽培も昔から盛んで、白菜27,000メ、茄子21,000メ、南瓜17,000メ、しょうが7,500メ、とまと3,500メ、ほうれんそう2,300メ程度が毎年出荷されている。特にしょうがは本県の特産として北海道、福島、宮城方面で好評を受け、将来を大いに展望される由。

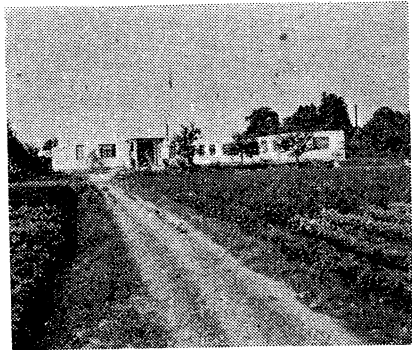
次に畜産面を見ると、おもな家畜の飼養頭数は乳牛80頭、役肉用牛287頭、馬320頭、山羊59頭、豚61頭、兎206頭、にわとり4,180羽で、(昭和33年2月冬期調査)今後さらに優良種の導入による有畜當農を奨励し、地力の向上と収入増加を望まれる。酪農経営、肉豚貸付なども次第に普及してきたので将来の発展が楽しめる。

町としても新農山漁村振興計画を33年度から着手し、農業協同組合を中心に農業経営の改善合理化を図るためまず33年度は有線放送施設、湿地帯の客土、飼料乾燥機動力米穀乾燥機、サイレージカッターの貸付、かんが

い対策の簡易井戸の堀抜きなどを行う予定といわれる。またおもな農業用機械の利用農家数は、電動機696戸、石油発動機704戸、動力耕うん機48戸、動力脱穀機1,078戸、足踏 $\times$ 51戸、動力穀すり機892戸、動力噴霧機384戸、人力噴霧機342戸、ダスター332戸、畜力碎土機482戸、畜力カルチベーター802戸、畜力すき815戸に達し(昭和33年2月冬期調査)、農業の畜、動力化が進んできた。農事研究団体は23にのぼり、このほど連合会も結成され殺草剤の使用研究に成功し、大きな効果を取めている由純農村だけあつて他の産業においてはほとんど見るべきものはない。

### 3. 教育文化

この村には小学校1(分校4)、中学校1あつて、小児児童1,644名(男858、女786)、中学生徒639名(男36、女303)に達し(昭和33年5月学校調査)、村としても自主的財源で小学校を昭和22年から5年間に、中学校は24年にそれぞれ新築したがさらに34年度には中学校の6教室を増築することになり、教育施設と教材の充実に努めている。この村の青年婦人団体の活動は非常に活発で、簡易水道や三槽式便所の設置のための月掛貯金なども実施している。特に寄生虫追放と高血圧防止の集団検診を全員に実施して大きな効果をあげており全国でも新しいケースとなつてい由。国民健康保険は昭和29年9月から全村加入を実施し、現在加入世帯1,312、被保険者8,988名予算884万円余にのぼり、直営診療所(職員6名、33年予算423.5万円)の開設と隔離病舎の再建を行い、村民の医療福祉の増進に拍車をかけており、保険料の徴収率も32年度は95.3%と急激に上昇し趣旨の徹底と勧誘に努力をされた関係者のなみなみならぬ苦勞の跡がしのばれる。納税貯蓄組合の結成も非常に円滑に進み、納税率も97%を越えるに至つた。ただ心配されてることは自転車、軽オートバイ、三輪車などの税金を廃止しても農村なのでたゞ消費税の増収を大きく期待できないこと由。消防施設は、可搬式動力ポンプ15台、団員300名、15分団となつており、火災による被害の防止を宣伝している。ここにはさしたる名所旧蹟はないが、利根川および江戸川の堤上から眺める関東平野の広々と開けた風景は誠に雄大である。



国保直営診療所

(単位円)

### 4. 財政

### 昭和33年度歳入歳出予算

歳入	村税	地方交付税交付金	使用料手数料	国庫支出金	県支出金	寄付金	繰越金	雑収入	計						
入	14,935,475	8,770,000	189,240	665,208	509,488	229,000	350,000	445,227	26,093,638						
歳出	議会費	役員費	消防費	土木費	教育費	社会労働保健施設費	衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	計
出	1,052,280	8,521,360	1,001,979	1,682,710	4,373,640	224,545	812,013	2,758,983,538	87,747,072	87,747,984	98,412,292	1,252,292	2,651,550	593,500	26,093,638